

桜の聖母学院中学校・高等学校 平成29年度 シラバス

履修年次	科・コース	教科名	科目名	単位数	履修形態
高2	普通科（一貫特進・ 国公立特進・ 大学進学）	理科	化学	4	選択

教科書	化学（数研出版）
その他教材	フォトサイエンス化学図録（数研出版） セミナー化学基礎+化学（第一学習社）

目標	<p>理科全体の目標：自然に対する関心や探究心を高め、観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p> <p>化学の目標：化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な自然観を育成する。</p>
学習のねらい	<p>物質の状態：化学基礎の内容をさらに深めて考察する。気体や液体のふるまいを数式によって理論づけする。固体の構造を理解する。</p> <p>物質の変化：物質の熱や酸化還元による変化、速度や平衡状態に対して数式による理論づけを行い、その理解を深める。</p> <p>無機・有機化合物：身の回りに存在する多くの物質について、物質の構造や性質、反応する性質などを理解する。</p> <p>高分子化合物：身の回りに存在する物質を取り上げ、その性質やふるまいを理解する。</p>
定期考査	中間考査・期末考査ともに実施
評価の観点 および 評価の方法	<p>学期評価：定期考査で7割程度、平常点で3割程度とし、その合計得点で評価する。</p> <p>学年評価：各学期評価の平均値を基準に学年評価とする。</p> <p>平常点：小テスト、実力テスト、実験レポート・課題等の提出状況、授業態度(授業への参加度を含む)、その他学習活動を総合的に評価する。</p>
履修上の注意	<p>教科書の内容の理解のために、各種プリントを使用するので、それらをとじるための専用ファイル(A4判)を用意すること。問題用ノートを別に用意すること。実験レポート・課題・ノート等は必ず期限厳守で提出すること。</p> <p>全体を通して化学的な事象を数式で記述することが多いので、各自が積極的に問題演習に取り組むことが必要とされる。1年次の化学基礎の上に位置する科目のため、1年次の学習内容の復習を教科書やノートなどで確認で行っておくこと。</p> <p>覚える事項が多いので、学習した日には家庭で短時間でもよいので、必ず復習を行うこと。当日の復習は記憶する度合いがアップすると言われている。</p> <p>授業の進度は1年間で化学を教えるという年間計画から逆算して決まるので、一般には早めである。理解できず赤点を取る生徒が多く出る科目であるので、授業内容が分からない時は、当日必ず質問して納得してから帰る習慣をつけること。</p>

桜の聖母学院中学校・高等学校 平成29年度 年間指導計画

期	月	学習項目・学習内容	テストと評価
1 学 期	4 月	第1編 粒子の結合と結晶の構造 物質の三態と状態変化	随時、確認テストを行う。
	5 月	気体 溶液	随時、確認テストを行う。 【一学期中間考査】
	6 月	第2編 化学反応とエネルギー	随時、確認テストを行う。 【一学期末考査】
	7 月	電池と電気分解 化学反応の速さとしくみ	随時、確認テストを行う。
夏季休業		2学期開始時に行う確認テストに向けた学習を夏季休業中の課題とする。	
2 学 期	8 ・ 9 月	化学平衡	随時、確認テストを行う。
	10 月	化学平衡	随時、確認テストを行う。 【二学期中間考査】
	11 月	第3編 非金属元素	随時、確認テストを行う。 【二学期末考査】
	12 月	金属元素	随時、確認テストを行う。
冬季休業		3学期開始時に行う確認テストに向けた学習を冬季休業中の課題とする。	
3 学 期	1 月	第4編 有機化合物の分類と分析 脂肪族と炭化水素 アルコールと関連化合物	随時、確認テストを行う。
	2 月	芳香族化合物	随時、確認テストを行う。 【学年末考査】
	3 月	第5編 天然有機化合物 天然高分子化合物 第6編 高分子化合物の性質 合成高分子化合物	随時、確認テストを行う。
春季休業			